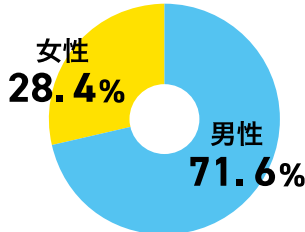
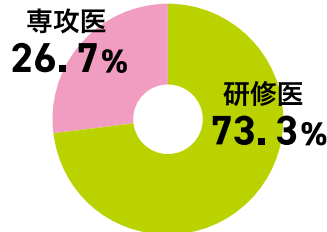


国立病院機構で働く専攻医・初期研修医 116 人に “医師の働き方改革” について聞きました

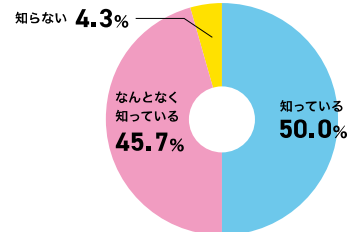
Q. あなたの性別は？



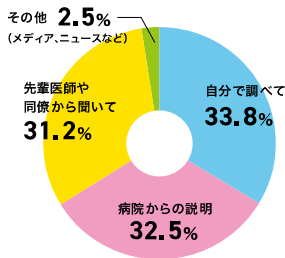
Q. あなたの身分は？



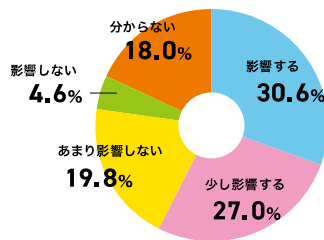
Q. 「働き方改革」の内容はご存じですか？



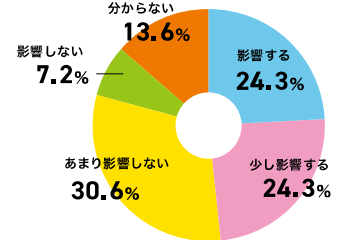
Q. 「働き方改革」の内容をどのようにして知りましたか？



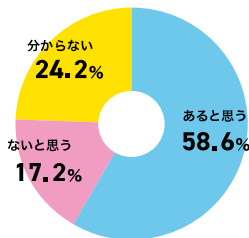
Q. 「働き方改革」はあなたの診療に影響すると思いますか？



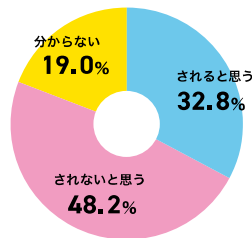
Q. 「働き方改革」はあなたの研修に影響すると思いますか？



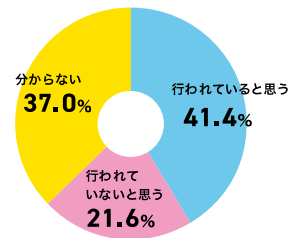
Q. 「働き方改革」で教育・指導体制に変化はあると思いますか？



Q. 「働き方改革」で時間外勤務は短縮されると思いますか？



Q. あなたの職場ではタスクシェア・タスクシフトは行われていますか？



Q. 「働き方改革」があなたの診療・研修に影響する内容・理由を教えてください

- 研鑽を積む時間が少なくなり、能力向上が難しくなりそう。
- 初期・後期研修医は休みなく働くべき。働き方改革で学ぶ機会を失い、診療に当たるのは言語道断だと思う。
- 当直明けの勤務時間が守られやすくなる。
- 実労働時間が少なくなり、研鑽の時間が減るため、診療の質が低下する可能性がある。
- 患者数が減ったり、医師の数が増えるわけではないので、仕事の効率化が求められる。
- 時間外労働について制限が厳しくなり、いい意味では帰れる、悪い意味では残りたくても残れなくなる。
- 時間外の業務内容を明確にしないと行けないので、業務の優先順位をつけたいと思いがち。
- 休みができる反面、学ぶ機会に限られる。
- 当直明け帰るのが必須になり、ローテ科の研修が物足りないことがある。
- 経験を積む機会が以前の働き方よりは減ることが予想されるから身体的な余裕がある程度担保されることで、体調のコントロールがしやすくなる。

Q. より良い研修にするため工夫していることがあれば教えてください

- 積極的に研修・セミナー・手技等に参加する。
- 経験した症例の情報共有を行い、同期と切磋琢磨する。
- 予習、復習。
- 先輩医師からフィードバックをもらえるようにコミュニケーションを取っている。
- 自分が急なお休みになった時にも、同僚がカバーしやすいように、患者さんとご家族に十分な病状説明を行なっておく事、カルテ記載をきちんとする事を気をつけています。
- 電子カルテについて、マニュアルをみて自分なりに使いやすくカスタムしている。マニュアルを読めば誰も教えてくれないことも知ることができ、その情報を指導医や同期に共有できる。
- 休む時はしっかり休んで、次の仕事のモチベーションを上げる。
- 患者さんに寄り添った姿勢と周りのスタッフと気持ちよく仕事ができる関係づくりです。
- 興味を持って診療に臨む。

Q. 「働き方改革」に期待することは？

- 自己研鑽という名のコスト削減の禁止。
- 医療の水準を保ちつつ、過労死する人が減ること。
- タスクシェア、タスクシフトがしっかり行われ、QOL改善が行われること。
- 土日の回診を主治医ではなく代診医で行うような体制。
- 業務と自己研鑽が明確に分かれること。
- 十分な研修環境は残してほしい。
- 仕事とプライベートが確立されながらも、医療の質は落とさないような取り組みを、一人ひとりが目指す必要がある。
- 医師になってよかったと思える、自分のこどもに胸を張って素晴らしい仕事だと言えるような職場を期待しています。
- 見かけの労働時間の減少だけでなく、実際の労働時間が減少するような仕組みを作って欲しい。
- 仕事とプライベートをどちらも大切にできるようになること。